

《 第5次 》 島根地区地域福祉活動計画

平成31年度～令和5年度



島根地区社会福祉協議会連合会

はじめに

～誰もが安心して暮らせる住みよい福祉のまちづくりを目指して～

島根地区地域福祉活動計画につきましては「支えあい みんなでつくろう しまねの明日」をスローガンに掲げ、平成26年度から平成30年度までの5ヶ年の第4次地域福祉活動計画を策定し、大芦、加賀、野波の各地区社会福祉協議会と連携を密にして、多くの地域の皆様や関係者の皆様方のご理解とご支援、ご協力を頂きながら地域福祉を積極的に推進してきたところです。

今回、第5次島根地区地域福祉活動計画の策定に当たり、これまでの成果を踏まえ、活動を振り返って見えてきた課題を考慮して、地域の実態に対応できる計画を策定したいと協議を重ねてまいりました。

第4次計画に基づく活動としては、なごやか寄り合い事業、見守り活動、健康まつえ21推進隊活動、介護予防活動、子育て支援活動などに取り組み、一定の成果をあげてきました。一方では、急速に進む人口の減少や少子高齢化による地域コミュニティの後退がもたらす諸問題が顕在化しつつあり、災害時を含めた地域での支え合いの体制づくりや、平成29年度に策定された「島根地域版まちづくり総合戦略」でも取り上げられた交通インフラへの対応等、新たな課題も見えてきました。

このような現状認識のもとで島根地域において必要とされる地域福祉について協議、検討を行い、令和元年度から5ヶ年の「第5次島根地区地域福祉活動計画」を策定いたしました。

誰もが安心して暮らせる住みよい福祉のまちづくりを目指して、「支えあい みんなでつくろう しまねの明日」を合言葉に島根地区地域福祉活動計画を実践していくため、公民館、自治会をはじめ、各種団体、民生児童委員、福祉推進員、福祉関係者、行政などの関係機関の皆様方との連携、協力はもとより、地域住民の皆様方の更なるご支援、ご協力を衷心よりお願い申し上げます。

終わりに、この計画を策定するに当たり協議、検討をいただきました委員の皆様やご意見を賜りました多くの関係機関の方々のご協力に厚く御礼を申し上げます。

令和元年 5月

島根地区社会福祉協議会連合会
会長 青戸 和雄

1. 島根地区の概要

(1) 島根地区の地理的概況

島根地区は島根県の東北部東西に延びる島根半島のほぼ中央東寄りに位置し、野波地区、加賀地区、大芦地区で構成されています。北は日本海に面し、海上約 50 kmに隠岐を臨み、東は美保関地域、西には鹿島地域、南は持田地域、本庄地域に接しており、東西約 8.6 km、南北約 8.2 km、面積は 37.23 km²です。人口は、3,321 人、世帯数は、1,384 所帯です。(平成 30 年 12 月末現在)

島根地域の南背部一体は、北山山脈が連なる山地で周辺地域との境界には三坂山、澄水山、大平山等がそびえ、この山々から脈生した分水嶺がやや低く連なって美保関地域、鹿島地域との境界を区切り、曲折 50 kmに及ぶ海岸線は、加賀の潜戸、多古の七ツ穴等多くの洞穴を持つ断崖絶壁の岬や、築島、桂島等、大小の島々・沈降性の湾入など複雑に入り組み、半島における代表的なリアス式海岸を形成しています。そして、海岸部全域が大山隠岐国立公園に、また境界の山々は宍道湖北山県立自然公園に指定されています。

(2) 島根地区の人口構造

人口の推移は、平成 21 年に 4,044 人、25 年には 3,759 人、29 年では 3,426 人と減少が続いています。また、65 歳以上の人口や一人暮らし高齢者数、高齢者世帯数は増加が進み、少子化等で人口の減少が続く中、高齢化率は 40%を超え、依然として高くなっています。

	平成 21 年 3 月末	平成 25 年 3 月末	平成 29 年 3 月末
人 口	4,044 人	3,759 人	3,426 人
65 歳以上人口	1,437 人	1,391 人	1,443 人
一人暮らし高齢者数	157 人	208 人	248 人
高齢者世帯数 (一人暮らしを除く)	144 世帯	152 世帯	207 世帯
高齢化率	35.5%	37%	42.1%

2. 第4次島根地区地域福祉活動計画の振り返りと評価

(1) 活動計画の概要

第4次計画では、「支えあい みんなで つくろう しまねの明日」をスローガンに掲げ、

「自らが活動に参加する動機づくり」

「みんなで集える交流の場づくり」

「助けあい・支えあいの仕組みづくり」

「元気で暮らす健康づくり」

の4つを基本目標に定めました。

さらに以下の5つを重点活動とし、事業に取り組んできました。

- ①認知症予防を含めた介護予防の推進
- ②引きこもり・生活困窮者への支援
- ③消費者被害予防の推進
- ④災害時を含めた地域の支え合いの体制づくり
- ⑤健康づくりの推進



「認知症予防体操講座」



「ひきこもり支援研修会」

(2) 第4次 (H26年度～30年度) 島根地区地域福祉活動計画の振り返りシート

基本目標	活動名	具体的取り組み内容	取り組み状況	成果・課題
自らが活動づくりに参加する	ボランティアグループの育成	島根町ボランティア促進協議会活動の推進	9団体、97名が加入 年1回の視察研修、研修会の開催	団体数・会員数も増え、地域内の活動の場も広がっている。 地区内で必要時に気軽に依頼でき、活動できる体制や周知が必要。
	サービス利用者も提供者になれる仕組みづくり	福祉施設との交流事業（ふれあい祭）の開催	年1回開催	地域イベントとして定着し、地域住民の交流の場となっている。
	若い世代の地域活動への参画	高校生ボランティアグループ「海桜会」との連携の促進	サマーフェスティバル（大芦イベント）にて、共同でブース運営	高校生世代と地域住民との繋がりができた。 自主的な活動の姿勢があるとよい。
みんなで集える交流の場づくり	なごやか寄り合い事業の推進	誰でも参加できるなごやか寄り合い会づくり	なごやか寄り合い事業の支援（講師の派遣、用具の貸し出し等）	参加者も多く、各地区の実情に合わせた内容で活動が行われているが、地区によっては新規参加者や男性参加者が少ない状況にある。 介護予防に資するテーマについては、複数年をかけて全地区へ講師派遣を行った。今後も地域課題に沿ったテーマでの講師派遣の継続が必要。
		世話人連絡会・研修会・情報交換会の開催	年2回開催	研修会の内容等を各地区で実施しており、有効に活用されている。 世話人の変更があるため、今後も継続実施が必要。
	地域の「交流の場」づくり	ふれあい会（独居高齢者・障がい者の方）交流会の開催	年1回の日帰り旅行の開催	参加者が年々減少し、H29年度には参加希望者がおらず、実施しなかった。 内容の検討が必要。
		「昔のひな祭り茶会」「おちらと喫茶」への支援	「昔のひな祭り茶会」経費補助	毎回多くの方でにぎわい、好評である。
	地域間交流と地域内交流の促進	健康まつえ21推進隊活動のPRと参加の促進	公民館だより、HP、告知放送等により随時実施	有効な手段で情報発信が行えており、活動のPRができています。隊員から直接誘うことも効果的で、参加者も多い。 継続したPRと参加の促進が必要。
		健康ウォーキングによる他地域や地域内交流の促進	地区内でのウォーキング年2回開催 松東ウォークへの参加	地区内外へ周知が広がり、参加者が年々増加している。参加者同士の交流の場にもなっている。 時々変化のある内容を盛り込み、継続参加者が増加する工夫が必要。
	世代間交流の促進	夏休みラジオ体操による小学生と地域住民の交流の促進	参加多数の児童を対象に参加賞の贈呈	地域住民や児童の健康づくり・交流の場となっている。 地域住民がより参加するよう情報発信が必要。
		中学校との連携による独居高齢者へ花の訪問活動	中学生が、花を持って地域の独居高齢者宅を訪問	独居高齢者と中学生との交流の機会となっている。
助け合い・支え合い	災害時を含めた地域の支え合いの体制作り	要配慮者支援会議の全地区での立ち上げと事業の推進	要配慮者支援会議の立ち上げに向け、自治連との合同研修会を開催	18地区で立ち上げ済み。 災害時にスムーズに対応できるよう、日頃からの連携・活動の継続が必要。
		自主防災組織との連携強化	自治連主催で毎年防災訓練を実施	毎年の継続した訓練によって災害時の備えについて意識を高めることができた。 自治会・要配慮者支援会議との連携強化・体制づくりが必要。
		福祉関係者連絡会の実施	毎月開催	関係者同士情報共有ができ、日頃から連携が取りやすい関係を構築できており、第2層協議体として位置づけ、地域課題の整理・解決についても検討することができた。 今後も継続して開催していく。

基本目標	活動名	具体的取り組み内容	取り組み状況	成果・課題
助け合い・支えあいの仕組みづくり	ひきこもり・生活困窮者への支援	ひきこもりや生活困窮者について学ぶ機会を設ける	一歩踏み出したくなる町づくりプロジェクトの立ち上げ、プロジェクト委員・福祉関係者を対象とした勉強会の開催	プロジェクト委員・福祉関係者を対象に、研修会や情報交換を通じ正しい知識や対処法等について習得できた。 今後は地域全体で引きこもりや生活困窮者について学ぶ機会の提供が必要。
		現状や実態把握の方法の検討	一歩踏み出したくなる町づくりプロジェクトの立ち上げ、福祉関係者との連携による実態の把握	個人情報の取り扱いに十分な配慮が必要な事柄であり、民生児童委員と支所保健師が通常の個別相談として対応した。 当事者や家族へ直接介入することが難しい面がある。相談を受けた際に「出かける場」「支援者」の一覧作成等により、一歩踏み出せる場所づくりをすすめる必要がある。
		相談機関や窓口の周知を図る	公民館報、各事業に併せて周知	公民館報や各事業に併せて相談窓口等を周知することができた。 予防・早期支援の観点から、早期に相談してもらえるような情報提供が必要。
	消費者被害予防の推進	なごやか寄り合いを活用し、情報を提供する	消費者問題出前講座の派遣、最近の消費者被害についての情報提供等	参加者も多く、良い情報提供の場となっている。 年々手口が変化していくことから、最新情報の提供の場として、今後も定期的な取り組みが必要である。
		悪質商法等の被害予防の取組みの検討	民児協・福祉推進員合同研修会等において、消費者問題・悪質商法をテーマとした研修の開催	福祉関係者を対象とした研修を行い、各地区で予防の呼びかけに繋がった。 年々手口が変化していくことから、最新情報の提供の場として、今後も定期的な取り組みが必要である。
	地域ぐるみで子育て支援	わいわいサロン（乳幼児健康相談）・乳幼児教室への支援	乳幼児教室経費助成（講師謝金、玩具の購入等）	子どもの成長確認や親の育児不安の軽減、親子同士の交流の場となっている。 1歳以降は保育所に入所する子どもが多いため参加者は少ないが、随時情報提供を行い対象者へ参加してもらえるようにする。
	高齢者や障がい者等への安心安全な生活の見守り	自治会・民児協・福祉推進員会の連携強化による見守り活動の推進と情報交換	民児協・福祉推進員合同研修会の開催	民生児童委員・福祉推進員の連携強化に繋がった。地域のケアマネジャーも参加してもらうことによってさらに地域の連携が強化された。 今後は自治会役員等も交えた情報交換の場を検討する。
		中国電力による独居高齢者・高齢者世帯の照明器具清掃ボランティアへの協力	民生委員を通じて、各地区の希望者の取りまとめと名簿の作成	独居高齢者・高齢者世帯の生活環境向上の一助となっている。
		かもめ会（精神障がい者家族会）への支援	交流会講師謝金補助	会員減少による活動費の減少があるなか、補助金助成により活動の継続支援ができた。 新規加入者もほとんどなく、会員の高齢化もあり、今後活動の継続が困難になる可能性がある。
	いつまでも元気で暮らす健康づくり	認知症予防を含めた介護予防の推進	地区住民が認知症、介護予防について学ぶ機会を設ける	認知症予防体操講座の開催 認知症サポーターの養成講座の開催
若い世代に対し、認知症について学ぶ機会を設ける			未実施	若い世代に限定せず、地域住民に広く学ぶ機会を設ける。
関係機関との連携による「オレンジカフェ」（認知症カフェ）や出前相談所の開設			山陰家庭学院主催のオレンジカフェがゆうなぎホームにて開始	オレンジカフェの開催にあわせ、民生児童委員や在宅高齢者との交流ができた。 開催日の周知等により、事業の支援が必要。
健康づくりの推進		健康まつえ21推進隊活動の推進	ウォーキング、研修会、講演会等の開催	地域住民に対して健康づくり活動が継続して行っている。 地域課題に沿った事業展開のため、他団体との更なる連携が必要。
		健（検）診受診者UPに向けた取り組みと呼びかけ	広報車、チラシ、なごやか寄り合い等での受診勧奨活動の実施	様々な機会を捉えて健（検）診受診勧奨を行い、住民の健康意識向上に繋がっている。
食を通じた健康づくり、生活習慣改善への取り組み		健康まつえ21推進隊、食生活改善推進員との連携による運動と食の取組みの強化	集団健診報告会等での減塩みそ汁の試食等	試食やアンケートを通じ、減塩について情報提供が行っている。
		島根地域文化祭内での健康チェックコーナーの開催	年1回開催	文化祭での開催も定着し、幅広い年代層に健康意識の向上について情報発信出来ている。

3. 島根地区の現状と課題

(1) 福祉指標

	平成 21 年 3 月末	平成 25 年 3 月末	平成 29 年 3 月末
人 口	4,044 人	3,759 人	3,426 人
世帯数	1,360 世帯	1,383 世帯	1,381 世帯
65歳以上人口	1,437 人	1,391 人	1,443 人
一人暮らし高齢者数	157 人	208 人	248 人
高齢者世帯数	144 世帯	152 世帯	207 世帯
介護認定者数	337 人	367 人	371 人
要支援	94 人	102 人	87 人
要介護	243 人	265 人	284 人
身体障がい者数	270 人	244 人	233 人
知的障がい者数	60 人	55 人	63 人
精神障がい者数	24 人	32 人	43 人

※松江市政策統計システムより

※身体・知的・精神障がい者数松江市統計情報データベースシステムより

(2) 地域をつよみと課題

①地域をつよみ

- ・島根地区では、全 19 地区でなごやか寄り合いが立ち上がっている。
- ・近隣に実家や兄弟・親戚が多く、近所同士の関わりも深い。
- ・ウォーキングやグラウンドゴルフなど健康づくりへの意識が高い。
- ・月 1 回開催される「おちらと喫茶」が住民の集いの場になっている。
- ・地区内福祉施設との交流が活発で身近な存在となっている。

②課 題

- ・なごやか寄り合いへの男性の参加者が少ない、参加者が固定してきている。
- ・自治会・民生児童委員協議会・福祉推進員会・自主防災組織の連携強化。
- ・認知症への理解の向上。
- ・独居高齢者や生活困窮者等支援が必要な世帯が増加している。
- ・独居・高齢者世帯・日中独居の災害時や平常時の見守り、支援体制の確立。
- ・通院や通学、買い物等のための公共交通機関の利便性が低い。

4. 第5次島根地区地域福祉活動計画の概要

(1) 福祉目標（スローガン）

「支えあい みんなで つくろう しまねの明日」

(2) 計画の重点事項

「支えあい みんなで つくろう しまねの明日」を福祉目標に、地域のだれもが、安心して暮らせる住みよい地域づくりを実践するため、第4次計画に引き続き、「自らが活動に参加する動機づくり」、「みんなで集える交流の場づくり」、「助けあい・支えあいの仕組みづくり」、「元気で暮らす健康づくり」の4つを基本目標に定めた。

そして第4次計画の振り返りで見えてきた課題を考慮し、「交通インフラの充実を図る」、「災害時を含めた地域の支えあい体制づくり」、「認知症予防を含めた介護予防の推進」、「生活困窮者等への支援」、「健康づくりの推進」の5つを重点活動とし、さまざまな事業に取り組んでいきます。

(3) 第5次島根地区地域福祉活動計画の重点活動

①交通インフラの充実を図る

- 公共交通機関の利用促進を図る
- 公共交通機関の利便性の向上を検討する
- 生活しやすい交通インフラを検討する

②災害時を含めた地域の支えあいの体制づくり

- 各地区『要配慮者支援会議』の活動の充実
- 自治会・民生児童委員協議会・福祉推進員会・自主防災組織の連携強化
- 平常時の見守り活動の推進

③認知症予防を含めた介護予防の推進

- なごやか寄り合い事業を活用し、高齢者に身近な情報を提供する
- 関係機関の協力を得て住民が認知症や介護について学ぶ機会を設ける
- からだ元気塾への参加の促進
- 相談機関や窓口の周知を図る

④生活困窮者等への支援

- 生活困窮者等への支援について学ぶ場を設ける
- 実態把握の方法の検討
- 相談機関や窓口の周知を図る

⑤健康づくりの推進

- 健康まつえ21推進隊活動の推進
- 特定健診・がん検診受診の呼びかけ

(4) 第5次計画の進捗管理

第2層協議体として位置づけている福祉関係者連絡会において、年度ごとに計画の進捗状況について協議・対応していきます。

5. 第5次島根地区地域福祉活動計画 実施計画表

スローガン（福祉目標）
支えあい みんなで つくろう しまねの明日

基本目標	活動名	取り組み内容	重点	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	実施・協力団体	
自らが活動に参加する 動機づくり	ボランティアグループの育成	島根町ボランティア促進協議会活動の推進		継続実施					→ 地区社協連合会 ボランティア促進協議会	
	サービス利用者も提供者になれる仕組みづくり	福祉施設との交流事業（ふれあい祭）の開催		継続実施					→ 地区社協連合会・福祉推進員 ボランティア促進協議会・福祉施設	
	若い世代の地域活動への参画	高校生ボランティアグループ「海桜会」との連携の促進		継続実施					→ 地区社協連合会 公民館・海桜会	
みんなで集える交流の場づくり	なごやか寄り合い事業の推進	誰でも参加できるなごやか寄り合い会づくり		継続実施					→ 地区社協・自治会 なごやか寄り合い世話人	
		世話人連絡会・研修会・情報交換会の開催		継続実施					→ 地区社協連合会 なごやか寄り合い世話人	
	地域の「交流の場づくり」	「文化祭」「昔のひな祭り茶会」「サマーフェスティバル」への協力		継続実施					→ 地区社協連合会 ボランティア促進協議会	
	地域間交流と地域内交流の促進	健康まつえ21推進隊活動のPRと参加の促進		継続実施						→ 地区社協連合会 健康まつえ21推進隊
		健康ウォーキングによる交流の促進		継続実施						→ 地区社協連合会 健康まつえ21推進隊
	世代間交流の促進	夏休みラジオ体操による小学生と地域住民の交流の推進		継続実施						→ 地区社協連合会・公民館 健康まつえ21推進隊 自治会・しまね潮風学園
小・中学校との連携による独居高齢者との交流活動			継続実施						→ 地区社協連合会 民生児童委員・しまね潮風学園	
助け合い・支えあいの	災害時を含めた地域の支えあいの体制づくり	要配慮者支援会議の活動の充実		検討・実施					→ 地区社協連合会 福祉推進員・民生児童委員・自治会 自主防災隊	
		自主防災組織の連携強化	○	検討・実施					→ 地区社協連合会 福祉推進員・民生児童委員・自治会 自主防災隊	
		福祉関係者連絡会の実施		継続実施					→ 地区社協連合会・公民館 民生児童委員・福祉施設・島根支所 松江市社協・松東包括	

基本目標	活動名	取り組み内容	重点	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	実施・協力団体	
助け合い・支えあいの仕組みづくり	生活困窮者等への支援	生活困窮者等への支援について学ぶ機会を設ける	○	検討・実施	評価・見直し実施				→ 地区社協連合会 福祉推進員・民生児童委員・自治会	
		相談機関や窓口の周知を図る		広報の検討実施					→ 地区社協連合会・島根支所 松江市社協・松東包括	
	交通インフラの充実を図る	公共交通機関の利用促進を図る	○	検討・実施	評価・見直し実施				→ 地区社協連合会・島根支所 コミュニティバス利用促進委員会	
		公共交通機関の利便性の向上を検討する		評価・検討					→ 地区社協連合会・島根支所 コミュニティバス利用促進委員会	
		生活しやすい交通インフラを検討する		検討					→ 地区社協連合会・島根支所 コミュニティバス利用促進委員会	
	地域ぐるみで子育て支援	わいわいサロン（乳幼児健康相談）・乳幼児教室への支援		継続実施					→ 地区社協連合会・公民館・島根支所	
	高齢者や障がい者等への安心安全な生活の見守り	自治会・民生委員会・福祉推進委員会の連携強化による見守り活動の推進と情報交換		継続実施						→ 地区社協連合会 福祉推進員・民生児童委員・自治会
		中国電力による独居高齢者・高齢者世帯の照明器具清掃ボランティアへの協力		継続実施						→ 地区社協連合会・民生児童委員
		かもめ会（精神障がい者家族会）への支援		継続実施						→ 地区社協連合会
	いつまでも元気で暮らす健康づくり	認知症予防を含めた介護予防の推進	地区住民が認知症、介護予防について学ぶ機会を設ける	○	検討・実施					→ 地区社協連合会・公民館・自治会
健康づくりの推進		健康まつえ21推進隊活動の推進	○	継続実施					→ 地区社協連合会 健康まつえ21推進隊	
		健（検）診受診者UPに向けた取り組みと呼びかけ		継続実施					→ 地区社協連合会 健康まつえ21推進隊・公民館 自治会・高齢者クラブ・島根支所	
食を通じた健康づくり、生活習慣改善への取り組み		健康まつえ21推進隊、食生活改善推進員との連携による運動と食の取り組みの強化		検討・実施	評価・見直し実施				→ 地区社協連合会 健康まつえ21推進隊 食生活改善推進員	
	島根地域文化祭内での健康チェックコーナーの開催		継続実施					→ 地区社協連合会・福祉推進員 健康まつえ21推進隊 島根支所・松江市社協・松東包括		